



移行ガイド

Sybase Event Stream Processor

5.0

ドキュメント ID：DC01735-01-0500-01

改訂：2011 年 12 月

Copyright © 2011 by Sybase, Inc. All rights reserved.

このマニュアルは Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル・ノートで特に示されないかぎり、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、無断で使用することはできません。

このマニュアルの内容を弊社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても、複製、転載、翻訳することを禁じます。

Sybase の商標は、Sybase の商標リスト (<http://www.sybase.com/detail?id=1011207>) で確認できます。Sybase およびこのリストに掲載されている商標は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。® は、米国における登録商標であることを示します。

このマニュアルに記載されている SAP、その他の SAP 製品、サービス、および関連するロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java および Java 関連の商標は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Unicode と Unicode のロゴは、Unicode, Inc. の登録商標です。

このマニュアルに記載されている上記以外の社名および製品名は、当該各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

Sybase, Inc., One Sybase Drive, Dublin, CA 94568.

目次

第 1 章：Aleri Streaming Platform 3.x へのアップグレード	1
第 2 章：AleriML モデルの CCL プロジェクトへの移行	3
変換レポート・ファイル	3
第 3 章：要素の移行	5
StartUp 要素の移行	5
DataLocation 要素の移行	5
ストア要素	6
例：メモリ・ストアの移行	6
例：ログ・ストアの移行	6
InConnection 要素の移行	7
OutConnection 要素の移行	8
SourceStream 要素	9
例：ステートフル・ストアを持つ SourceStream の移行	9
例：insertOnly 属性を持つ SourceStream の移行	9
例：FilterExpression を持つ SourceStream の移行	10
例：autogen 属性を持つ SourceStream の移行	10
例：InputWindow を持つ SourceStream の移行	11
例：ステートレス・ストアを持つ SourceStream の移行	12
CopyStream 要素	12

例：ステートフル・ストアを持つ CopyStream の移行	12
例：InputWindow を持つ CopyStream の移行	13
ステートフル・ストアを持つ UnionStream の移行	13
FilterStream 要素	14
例：ステートフル・ストアを持つ FilterStream の移行	14
例：InputWindow を持つ FilterStream の移行	15
ステートフル・ストアを持つ ComputeStream の移行	15
ステートフル・ストアを持つ ExtendStream の移行	16
ステートフル・ストアを持つ AggregateStream の移行	17
JoinStream 要素	17
例：Inner ジョインを持つ JoinStream の移行	19
例：LeftOuter ジョインを持つ JoinStream の移行	20
例：FullOuter ジョインを持つ JoinStream の移行	21
Global の移行	22
FlexStream の移行	23
PatternStream の移行	24
第 4 章：ユーザ定義関数の移行	27
例：Foreign 関数の移行	27
例：ForeignJava 関数の移行	28
第 5 章：用語の変更	29
第 6 章：移行されるユーティリティ	31
第 7 章：データ型のマッピング	33

第 8 章：既知の制限事項.....35

索引37

目次

Aleri Streaming Platform 3.x への アップグレード

Aleri Streaming Platform バージョン 2.x を実行している場合、移行を行う前に **esp_upgrade** コーティリティを使用して、3.x にアップグレードします。

esp_upgrade コーティリティを使用して Aleri 2.x から Aleri 3.x にアップグレードします。AleriML ファイルを CCL に変換する Event Stream Processor 変換ツールは AleriML バージョン 3.x に基づいています。このため、モデルを CCL に移行する前に Aleri 2.x 用に記述されたモデルを Aleri 3.x 用に変換します。

このコーティリティによって指定された AleriML ファイルからプロジェクト・データが読み込まれ、標準の XML 出力ファイルに書き込まれます。コーティリティはほとんどのアップグレードの問題を自動的に処理しますが、以下に関しては手動での更新が必要になります。

- ルールの変換 (**esp_upgrade** を使用して XML ファイル内でコメントアウト)
- 式の変換 (ルールの変換でのみ実行されるため、同様に XML ファイル内でコメントアウト)
- ローのローカル記憶領域の eventCaches への変換

このアップグレードは次の手順で行います。

1. コマンド・ラインで以下を実行します。

```
esp_upgrade sourcefile.xml > destinationfile.xml
```

ここで、sourcefile.xml は 2.x のプロジェクト・ファイルで、destinationfile.xml はアップグレード後の 3.x のファイルです。

2. 必要に応じて出力 XML ファイル (destination.xml) を変更し、手動でのアップグレードの問題に対応します。
3. ファイルを保存して閉じます。
これで、Sybase® Event Stream Processor 移行ツールを実行して AleriML ファイルを CCL に移行する準備ができました。

第 1 章：Aleri Streaming Platform 3.x へのアップグレード

AleriML モデルの CCL プロジェクト トへの移行

`esp_aml2ccl` ユーティリティを使用して既存の AleriML モデルを CCL プロジェクトに移行します。

正常に移行を完了させるために、CCL 言語に関する基本事項を理解します。変換を実行する前に、『CCL プログラマーズ・ガイド』を参照してください。

AleriML の既存のモデルを CCL に変換するには、次のようにします。

1. 以下のコマンドを実行します。

```
esp_aml2ccl -f <filepath>.xml -p <ProjectName> -l<ProjectLocation>
```

ここで、`-f <filepath>.xml` は AleriML モデル・ファイルのパスで、`-p <ProjectName>` はターゲットの CCL プロジェクトの名前 (デフォルトは xml 入力ファイルのプレフィクス) で、`-l <ProjectLocation>` はプロジェクトの場所の絶対パス (デフォルトは現在の場所) です。

2. 変換によって作成される 3 つのファイルを参照します。

- `<projectName>.ccp` - プロジェクトの詳細を含みます。
- `<projectName>.ccl` - 変換後の CCL 要素を含みます。
- `<projectName>.err` - 変換に関する情報、および変換中に生成されたエラーと警告を含みます。

注意： [File] メニューから [Convert Aleri Model] を選択して、ESP スタジオから同様の操作を行うこともできます。

参照：

- 第 8 章、「既知の制限事項」(35 ページ)

変換レポート・ファイル

変換レポート (.err) ファイルには、変換手順に関する情報、および AleriML の CCL への変換中に発生したエラーが含まれます。

変換レポート・ファイルには、それぞれに重大度が割り当てられたログ文があります。

第 2 章：AleriML モデルの CCL プロジェクトへの移行

重大度	説明
INFO	各移行手順と全体的なプロセスの概要です。例： <code>INFO:Initialization start for Store element store1.</code>
WARNING	AleriML モデル・ファイルの移行が完了しておらず、CCL ファイルまたはプロジェクトの配備において手動更新が必要です。例： <code>The restriction access mechanism in ccl has been changed.It needs to be configured manually.</code>
ERROR	AleriML モデル・ファイルはエラーを含みます。例： <code>ExtendStream ExtendStream1 could not be converted to ccl as it could not be initialized.</code>

Aleri 要素を CCL に移行する方法の例を確認します。

StartUp 要素の移行

CCL では、Aleri の StartUp 要素は **ADAPTER START** 文に移行し、接続グループ参照を使用します。**ATTACH ADAPTER** 文のアダプタに接続グループを割り当てることができます。

AleriML :

```
<StartUp comments="StartUp">
  <ConnectionGroup id="ConnectionGroup1" type="start">
    <ConnectionRef connection=" Connection1"/>
  </ConnectionGroup>
  <ConnectionGroup id="ConnectionGroup2" type="nostart">
    <ConnectionRef connection="Connection2"/>
  </ConnectionGroup>
</StartUp>
```

CCL :

```
ADAPTER START GROUPS
ConnectionGroup1 , ConnectionGroup2 NOSTART ;
```

DataLocation 要素の移行

Aleri の DataLocation 要素は CCL に直接移行しません。これは、CCL に同等の要素がないためです。ただし、**ATTACH ADAPTER** 文の CCL アダプタ・プロパティとしてすべての Aleri の DataLocation プロパティを定義できます。

AleriML :

```
<DataLocation id="xml_file_input" type="xml_in">
  <LocationParam name="dir" value="C:/test"/>
  <LocationParam name="matchStreamName" value="false"/>
  <LocationParam name="filePattern" value="*.xml"/>
  <LocationParam name="file" value="test.xml"/>
</DataLocation>
```

対応する CCL はありません。

ストア要素

AleriML から CCL にストア要素を移行する方法を確認します。

AleriML には、ステートレス、メモリ、ログの 3 つのタイプのストアがあります。CCL にあるのは、メモリとログの 2 つのタイプのみです。CCL では、Aleri のメモリ・ストアは **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、Aleri のログ・ストアは **CREATE LOG STORE** 文に移行します。

例：メモリ・ストアの移行

CCL では、Aleri のメモリ・ストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行します。デフォルトでは、`indextype` と `indexsizehint` のプロパティが設定されています。

Aleri の `index` プロパティは、CCL では、`indextype` プロパティに移行します。AleriML は `index="{tree|hash|list}"` を持つのに対し、CCL は `INDEXTYPE={'tree'|'hash'}` を持ちます。デフォルトでは、AleriML の `index="list"` は、CCL では `INDEXTYPE='tree'` に移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" id="store1" kind="memory" index="tree"/>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',  
INDEXSIZEHINT =8;
```

例：ログ・ストアの移行

CCL では、Aleri のログ・ストア要素は **CREATE LOG STORE** 文に移行します。デフォルトでは、`reservepct`、`indexsizehint`、`sync`、`ckcount` のプロパティが設定されています。

AleriML :

```
<Store id="events" kind="log" fullsize="1024" file="store/events" />
```

CCL :

```
CREATE LOG STORE events PROPERTIES FILENAME ='store/events',  
MAXFILESIZE =1024, RESERVEPCT =20, SYNC = false , CKCOUNT =10000,  
INDEXSIZEHINT =8;
```

InConnection 要素の移行

CCL では、Aleri の InConnection 要素は **ATTACH INPUT ADAPTER** 文に移行し、アダプタ・プロパティとして InConnection と DataLocation のプロパティが定義されます。Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、SourceStream 要素は **CREATE INPUT WINDOW** 文に移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" id="store1" kind="memory"/>
  <DataLocation id="xml_file_input" type="xml_in">
    <LocationParam name="dir" value="C:/test"/>
    <LocationParam name="matchStreamName" value="false"/>
    <LocationParam name="filePattern" value="*.xml"/>
  </DataLocation>
<SourceStream id="alldatatypes" store="store1">
  <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
  <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
  <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
  <InConnection location="xml_file_input" name="InConn1">
    <ConnectionParam name="file" value="test.xml"/>
  </InConnection>
</SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1;
ATTACH INPUT ADAPTER InConn1
TYPE xml_in
TO alldatatypes
PROPERTIES
dir='C:/test',
file='test.xml',
filePattern='*.xml',
matchStreamName=false;
```

OutConnection 要素の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、SourceStream 要素は **CREATE INPUT WINDOW** 文に移行し、OutConnection 要素は **ATTACH OUTPUT ADAPTER** 文に移行します。

Aleri の OutConnection と DataLocation のプロパティは、アダプタ・プロパティとして定義されます。

AleriML :

```
<Store file="store1 id="store1" kind="memory"/>
  <DataLocation id="xmlOut" type="xml_out"></DataLocation>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1">
    <OutConnection location="xmlOut" name=" OutConn1">
      <ConnectionParam name="dir" value="output"/>
      <ConnectionParam name="file" value="testOut.xml"/>
      <ConnectionParam name="outputBase" value="true"/>
    </OutConnection>
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
  </SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1;
ATTACH OUTPUT ADAPTER OutConn1
TYPE xml_out
TO alldatatypes
PROPERTIES
dir='output',
file='testOut.xml',
outputBase=true;
```

SourceStream 要素

さまざまなケースの SourceStream 要素を AleriML から CCL に移行する方法を確認します。

例：ステートフル・ストアを持つ SourceStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、SourceStream 要素は入力ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
  </SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE = 'tree',
INDEXSIZEHINT = 8 ;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a )
STORE store1;
```

例：insertOnly 属性を持つ SourceStream の移行

Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行します。CCL では、ストリームはステートレスであり INSERT opcode のみをサポートします。ウィンドウはステートフルでありすべての opcode をサポートします。

したがって、この例は、出力ウィンドウが続く入力ストリームに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1"
insertOnly="true">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
  </SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE = 'tree',
INDEXSIZEHINT = 8;
CREATE INPUT STREAM Ccl_0_alldatatypes
```

第3章：要素の移行

```
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING);
CREATE OUTPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY DEDUCED
STORE store1
AS
SELECT Ccl_0_alldatatypes.id, Ccl_0_alldatatypes.a,
Ccl_0_alldatatypes.charData FROM Ccl_0_alldatatypes GROUP BY
Ccl_0_alldatatypes.id, Ccl_0_alldatatypes.a;
```

例：FilterExpression を持つ SourceStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、FilterExpression は **WHERE** 句に移行します。

したがって、この例は、**WHERE** 句を持つ出力ウィンドウが続く、入力ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
    <FilterExpression>alldatatypes.charData in ('aa','bb','cc')</
FilterExpression>
  </SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE INPUT WINDOW Ccl_0_alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1;
CREATE OUTPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
AS
SELECT * FROM Ccl_0_alldatatypes
WHERE Ccl_0_alldatatypes.charData in ('aa','bb','cc');
```

例：autogen 属性を持つ SourceStream の移行

CCL では、nextval() は Aleri autogen 属性と同等であり、Aleri のストア属性は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行します。

したがって、この例は、出力ウィンドウが続く入力ウィンドウに移行します。また、**SELECT** 句の値として設定された nextval() を持つ出力ウィンドウ・スキーマ用に ID カラムが含まれています。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1"
insertOnly="true">
  <Column datatype="int64" key="true" name="id" autogen="true"/>
  <Column datatype="int64" key="false" name="a"/>
  <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
</SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE INPUT STREAM Ccl_0_alldatatypes
SCHEMA (a LONG, charData STRING);
CREATE OUTPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id LONG, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id)
STORE store1
AS
SELECT nextval() AS id, Ccl_0_alldatatypes.a AS a,
Ccl_0_alldatatypes.charData AS charData FROM Ccl_0_alldatatypes;
```

例：InputWindow を持つ SourceStream の移行

CCL では、Aleri の InputWindow 要素は **KEEP** 句にマップします。

したがって、この例は、**KEEP** 句を持つ入力ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1" >
  <InputWindow type="records" value="1000" slack="500"/>
  <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
  <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
  <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
</SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
KEEP 1000 ROWS SLACK 500;
```

例：ステートレス・ストアを持つ **SourceStream** の移行

CCLでは、アタッチされたステートレス・ストアを持つ Aleri の **SourceStream** 要素は入力ストリーム要素に移行します。これは、CCL ではストリームはステートレスであるためです。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="stateless"/>
<SourceStream id="alldatatypes" store="store1"
insertOnly="true">
  <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
  <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
  <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
</SourceStream>
```

CCL :

```
CREATE INPUT STREAM alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING);
```

CopyStream 要素

さまざまなケースの **CopyStream** 要素を AleriML から CCL に移行する方法を確認します。

例：ステートフル・ストアを持つ **CopyStream** の移行

CCLでは、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、**CopyStream** 要素は出力ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
<CopyStream id="copydatatypes" store="store1"
istream="alldatatypes"/>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE OUTPUT WINDOW copydatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
AS
SELECT * FROM alldatatypes;
```

例：InputWindow を持つ CopyStream の移行

この例では、Aleri の CopyStream 要素は、アタッチされたステートフル(メモリ)ストアと、入力ストリーム "alldatatypes" の InputWindow を持ちます。CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、InputWindow 要素は **KEEP** 句にマップします。

したがって、この例は、出力ウィンドウが続く、**KEEP** 句を持つローカル・ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <CopyStream id="copydatatypes" store="store1"
istream="alldatatypes">
  <InputWindow stream="alldatatypes" type="records" value="1000"
slack="500"/>
  </CopyStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE LOCAL WINDOW Ccl_1_alldatatypes SCHEMA (id INTEGER, a LONG,
charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
  STORE store1
KEEP 1000 ROWS SLACK 500
  AS
  SELECT alldatatypes.id AS id, alldatatypes.a AS a,
alldatatypes.charData AS charData FROM alldatatypes;
CREATE OUTPUT WINDOW copydatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
  STORE store1
  AS
  SELECT * FROM Ccl_1_alldatatypes;
```

ステートフル・ストアを持つ UnionStream の移行

この例では、Aleri の UnionStream 要素は、アタッチされたステートフル(メモリ)ストアと、ユニオン演算に含める2つの入力ストリーム ("alldatatypes" と "alldatatypes1") を持ちます。CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、UnionStream 要素は **UNION** 句を持つ出力ウィンドウに移行します。

AleriML :

第3章：要素の移行

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
<UnionStream id="uniondatatypes" istream="alldatatypes
alldatatypes1" store="store1">
</UnionStream>
```

CCL：

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE OUTPUT WINDOW uniondatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
AS
SELECT * FROM alldatatypes
UNION
SELECT * FROM alldatatypes1;
```

FilterStream 要素

さまざまなケースの FilterStream 要素を AleriML から CCL に移行する方法を確認します。

例：ステートフル・ストアを持つ FilterStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、Aleri の FilterStream 要素は出力ウィンドウに移行します。

AleriML：

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
<FilterStream id="filterdatatypes" store="store1"
istream="alldatatypes">
  <FilterExpression>alldatatypes.charData in ('aa','bb','cc')</
FilterExpression>
</FilterStream>
```

CCL：

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE OUTPUT WINDOW filterdatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
AS
SELECT * FROM alldatatypes
WHERE alldatatypes.charData in ('aa','bb','cc');
```

例：InputWindow を持つ FilterStream の移行

この例では、AleriMLのFilterStreamは、アタッチされたステートフル・ストアと、入力ストリーム "alldatatypes" のInputWindowを持ちます。CCLでは、Aleriのストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、InputWindow 要素は **KEEP** 句にマップします。

したがって、この例は、**WHERE** 句を持つ出力ウィンドウが続く、**KEEP** 句を持つローカル・ウィンドウに移行します。

AleriML：

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
<FilterStream id="filterdatatypes" store="store1"
istream="alldatatypes">
  <InputWindow stream="alldatatypes" type="records" value="1000"
slack="500"/>
  <FilterExpression>alldatatypes.charData in ('aa','bb','cc')</
FilterExpression>
</FilterStream>
```

CCL：

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE LOCAL WINDOW Ccl_1_alldatatypes SCHEMA (id INTEGER, a LONG,
charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
KEEP 1000 ROWS SLACK 500
AS
SELECT alldatatypes.id AS id, alldatatypes.a AS a,
alldatatypes.charData AS charData FROM alldatatypes;

CREATE OUTPUT WINDOW filterdatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
AS
SELECT * FROM Ccl_1_alldatatypes
WHERE Ccl_1_alldatatypes.charData in ('aa','bb','cc');
```

ステートフル・ストアを持つ ComputeStream の移行

CCLでは、Aleriのストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、ComputeStream 要素は出力ウィンドウに移行します。ColumnExpression 要素の名前属性の値は、出力ウィンドウの **SELECT** 句のカラムの名前となります。ColumnExpression 要素の値は、**SELECT** 句の値となります。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
<ComputeStream id="Normalizeddatatypes" store="store1"
istream="alldatatypes">
  <ColumnExpression key="true" name="id1" >alldatatypes.id</
ColumnExpression>
  <ColumnExpression name="a1">alldatatypes.a * 5</
ColumnExpression>
  <ColumnExpression name="charData1">alldatatypes.charData</
ColumnExpression>
</ComputeStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE OUTPUT WINDOW Normalizeddatatypes
SCHEMA (id 1 INTEGER, a1 LONG, charData1 STRING)
PRIMARY KEY (id)
STORE store1
AS
SELECT alldatatypes.id AS id1, alldatatypes.a * 5 AS a1,
alldatatypes.charData AS charData1
FROM alldatatypes;
```

ステートフル・ストアを持つ **ExtendStream** の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行します。Aleri の **ExtendStream** 要素が入力ストリームからのすべてのカラムを拡張する場合、CCL では、この要素は入力ウィンドウからの拡張カラムを持つ出力ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
<ExtendStream id="Extenddatatypes" store="store1"
istream="alldatatypes">
  <ColumnExpression name="a1">alldatatypes.a * 109.0</
ColumnExpression>
  <ColumnExpression
name="charData">concat(alldatatypes.charData,'test')</
ColumnExpression>
</ExtendStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE OUTPUT WINDOW Extenddatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING, a1 FLOAT)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
```

```
AS
SELECT alldatatypes.id AS id, alldatatypes.a AS a,
concat(alldatatypes.charData,'test') AS charData, alldatatypes.a *
109.0 AS a1 FROM alldatatypes;
```

ステートフル・ストアを持つ AggregateStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、AggregateStream 要素は出力ウィンドウに移行します。ColumnExpression 要素の名前属性の値は、出力ウィンドウの **SELECT** 句のカラムの名前となります。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
<AggregateStream id="Aggrdatatypes" store="store1"
istream="alldatatypes">
<ColumnExpression key="true" name="id">alldatatypes.id</
ColumnExpression>
<ColumnExpression key="false" name="maxA">max(alldatatypes.a)</
ColumnExpression>
</AggregateStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE OUTPUT WINDOW Aggrdatatypes
SCHEMA (id INTEGER, maxA LONG)
PRIMARY KEY DEDUCED
STORE store1
AS
SELECT alldatatypes.id AS id, max(alldatatypes.a) AS maxA
FROM alldatatypes
GROUP BY alldatatypes.id;
```

JoinStream 要素

さまざまなケースの JoinStream 要素を AleriML から CCL に移行する方法を確認します。

Event Stream Processor でのジョインの使用と Aleri Streaming Platform でのジョインの使用は、いくつかの点で異なります。

Aleri Streaming Platform	Event Stream Processor
挿入専用のストリームのジョインを行う場合にのみ内部ジョインをサポートします。	内部ジョインの制限はありません。

Aleri Streaming Platform	Event Stream Processor
多対多はサポートしません。	多対多をサポートします。
保存内容の間接的な指定をサポートしません。ジョイン・ソースからの保存内容を持つ CopyStream を作成します。このコピーをジョインのソースとして使用しません。	メモリ・ストアのジョイン・ソースのみで保存内容の直接的な指定をサポートします。 注意： ログ・ストアでは、ジョイン・ソースのコピーで保存内容を作成します。このコピーをジョインのソースとして使用します。
1つのスレッドで実行されるストリームのみをジョインします。	ジョインの複雑さやタイプに応じて複数のスレッドを作成できます。
ストリーム (ステートレス・ストア要素) とウィンドウ (メモリ・ストア要素またはログ・ストア要素) のジョインはサポートしません。	ストリーム (ステートレス・ストア要素) とウィンドウのジョインをサポートします。レコードがストリームに到達するとこのジョインが実行され、ストリームがジョインのトリガとして機能します。
プライマリ・キーの抽出はサポートしません。	プライマリ・キーを抽出できます。
1つの文での複数の操作の指定はサポートしません。各操作は個別に定義されます。	1つの文での複数のジョイン、フィルタ、集約の指定をサポートします。これは、コンパイラにより複数のスレッドに分割されます。

制限事項

Aleri Streaming Platform は、ジョインにおいてターゲットのキー・フィールドが有効であるかどうかの検証を行いません。null 値および不正な挿入、更新、削除を生成したジョインは暗黙的に無視されます。Event Stream Processor のコンパイラは、ジョイン内でキーとして選択できるものを厳密に実施します。

注意： 『CCL プログラマーズ・ガイド』の「キー・フィールド・ルール」を参照してください。

このため、AleriML のキー・ルールに従っていないジョインでは、CCL に変換された際のコンパイルが行われません。コンパイルを行うには、変換された CCL を編集してキー・フィールドを修正してください。

参照：

- 第 8 章、「既知の制限事項」(35 ページ)

例：Inner ジョインを持つ JoinStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、JoinStream 要素は JOIN 式を持つ出力ウィンドウに移行します。

この例では、AleriML の JoinStream "EqJoindatatypes" は、入力ストリーム "alldatatypes" と "alldatatypes1" 間に内部ジョインを持ち、それらの間に 1 対 1 のマッピングが実装されています。これらの SourceStream 要素 (alldatatypes と alldatatypes1) は、CCL では入力ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
  </SourceStream>
  <SourceStream id="alldatatypes1" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData1"/>
  </SourceStream>
  <JoinStream id="EqJoindatatypes" istream="alldatatypes
alldatatypes1" store="store1">
    <Join constraints="id=id a=a" table1="alldatatypes"
table2="alldatatypes1" type="inner"/>
    <ColumnExpression key="true" name="id">alldatatypes.id</
ColumnExpression>
    <ColumnExpression key="true" name="a">alldatatypes.a</
ColumnExpression>
    <ColumnExpression key="false"
name="chardata">alldatatypes.charData</ColumnExpression>
    <ColumnExpression key="false"
name="chardata1">alldatatypes1.charData1</ColumnExpression>
  </JoinStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes1
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData1 STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1;
CREATE OUTPUT WINDOW EqJoindatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, chardata STRING, chardata1 STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
```

第 3 章：要素の移行

```
AS
SELECT alldatatypes.id AS id, alldatatypes.a AS a,
alldatatypes.charData AS chardata, alldatatypes1.charData1 AS
chardata1 FROM
alldatatypes
INNER JOIN
alldatatypes1
ON alldatatypes.id = alldatatypes1.id AND alldatatypes.a =
alldatatypes1.a;
```

例：LeftOuter ジョインを持つ JoinStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、JoinStream 要素は JOIN 式を持つ出力ウィンドウに移行します。

Aleri の JoinStream "leftOuterJoindatatypes" は、入力ストリーム "alldatatypes" と "alldatatypes1" 間に左外部ジョインを持ち、それらの間に 1 対多のマッピングが実装されています。これらの SourceStream 要素 (alldatatypes と alldatatypes1) は、CCL では入力ウィンドウに移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="true" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
  </SourceStream>
  <SourceStream id="alldatatypes1" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="false" name="a1"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData1"/>
  </SourceStream>
  <JoinStream id="leftOuterJoindatatypes" istream="alldatatypes
alldatatypes1" store="store1">
    <Join constraints="id=id a=a1" table1="alldatatypes"
table2="alldatatypes1" type="leftouter"/>
    <ColumnExpression key="true" name="id">alldatatypes.id</
ColumnExpression>
    <ColumnExpression key="true" name="a">alldatatypes.a</
ColumnExpression>
    <ColumnExpression key="false"
name="chardata">alldatatypes.charData</ColumnExpression>
    <ColumnExpression key="false"
name="chardata1">alldatatypes1.charData1</ColumnExpression>
  </JoinStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
```

```

STORE store1;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes1
SCHEMA (id INTEGER, a1 LONG, charData1 STRING)
PRIMARY KEY (id)
STORE store1;
CREATE OUTPUT WINDOW leftOuterJoinDatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING, charData1 STRING)
PRIMARY KEY (id, a)
STORE store1
AS
SELECT alldatatypes.id AS id, alldatatypes.a AS a,
alldatatypes.charData AS charData, alldatatypes1.charData1 AS
charData1 FROM
alldatatypes
LEFT JOIN
alldatatypes1
ON alldatatypes.id = alldatatypes1.id AND alldatatypes.a =
alldatatypes1.a1;

```

例：FullOuter ジョインを持つ JoinStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、JoinStream 要素は JOIN 式を持つ出力ウィンドウに移行します。

Aleri の JoinStream "FOuterJoinDatatypes" は、入力ストリーム "alldatatypes" と "alldatatypes1" 間に左外部ジョインを持ち、それらの間に 1 対 1 のマッピングが実装されています。CCL では、Aleri の SourceStream 要素 (alldatatypes と alldatatypes1) は、入力ウィンドウに移行します。

ただし、CCL はコンパイルされない場合があります。これは、Event Stream Processor コンパイラは Aleri コンパイラより厳密であるためです。このため、移行ツールで処理できない **SELECT** 句で使用される式にはいくつか変更点があります。これらの変更点を手動で実行します。

1. 関連するストリームとウィンドウの間に 1 対 1 のマッピングが存在するようにします。
2. プライマリ・キー用に `firstnonnull()` を追加します。

AleriML :

```

<Store file="store1" fullsize="64" id="store1" kind="memory"/>
  <SourceStream id="alldatatypes" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="false" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData"/>
  </SourceStream>
  <SourceStream id="alldatatypes1" store="store1">
    <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
    <Column datatype="int64" key="false" name="a"/>
    <Column datatype="string" key="false" name="charData1"/>
  </SourceStream>
  <JoinStream id="FOuterJoinDatatypes" istream="alldatatypes
alldatatypes1" store="store1">

```

第3章：要素の移行

```
<Join constraints="id=id" table1="alldatatypes"
table2="alldatatypes1" type="fullouter"/>
<ColumnExpression key="true" name="id">alldatatypes.id</
ColumnExpression>
<ColumnExpression key="false" name="a">alldatatypes1.a</
ColumnExpression>
<ColumnExpression key="false"
name="charData">alldatatypes.charData</ColumnExpression>
<ColumnExpression key="false"
name="charData1">alldatatypes1.charData1</ColumnExpression>
</JoinStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING)
PRIMARY KEY (id)
STORE store1;
CREATE INPUT WINDOW alldatatypes1
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData1 STRING)
PRIMARY KEY (id)
STORE store1;
CREATE OUTPUT WINDOW FOuterJoindatatypes
SCHEMA (id INTEGER, a LONG, charData STRING, charData1 STRING)
PRIMARY KEY (id)
STORE store1
AS
SELECT firstnonnull(alldatatypes.id) AS id, alldatatypes1.a AS a,
alldatatypes.charData AS charData, alldatatypes1.charData1 AS
charData1 FROM
alldatatypes
FULL JOIN
alldatatypes1
ON alldatatypes.id = alldatatypes1.id;
```

Global の移行

CCL では、Aleri の Global 要素は **DECLARE END** 文に移行します。

AleriML :

```
<Global>
int32 depth_of_book := 10;
double change_currency(double val) { return val * 1.57; }
</Global>
```

CCL :

```
DECLARE
INTEGER depth_of_book := 10;
FLOAT change_currency(FLOAT val) { return val * 1.57; }
END;
```

FlexStream の移行

CCL では、Aleri のストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行し、FlexStream "compute" はフレックス要素 "Ccl_1_compute" に移行して、出力ウィンドウ "compute" としての OUT、および AleriML で以前に定義されたスキーマが付加されます。メソッド要素は **ON** 句に移行します。

AleriML :

```
<FlexStream id="compute" istream="alldatatypes" store="store1">
  <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
  <Column datatype="int64" key="true" name="a1"/>
  <Column datatype="string" key="false" name="charData1"/>

  <Method name="inputMethod" stream="alldatatypes">{
    [int32 id; int64 a; | string charData ] record :=
alldatatypes;
    record.a := record.a + 9;
    record.charData := concat(record.charData, 'aa');
    output record;
  }</Method>
</FlexStream>
```

CCL :

```
CREATE FLEX Ccl_1_compute
  IN alldatatypes
  OUT OUTPUT WINDOW compute SCHEMA (id INTEGER, a1 LONG, charData1
STRING)
  PRIMARY KEY (id, a1)
  STORE store1
BEGIN
ON alldatatypes {
{
  [INTEGER id; LONG a; | STRING charData ] record :=
alldatatypes;
  record.a := record.a + 9;
  record.charData := concat(record.charData, 'aa');
  output record;
}
};
END;
```

PatternStream の移行

CCL では、Aleri の PatternStream "compute" は出力ストリーム "Ccl_1_Pattern" に移行します。

この出力ストリームでは、**MATCHING** 句と **ON** 句を使用して AleriML からのパターンを定義します。次に、フレックス要素 "Ccl_2_compute" で出力ストリーム "Ccl_1_Pattern" からの入力を取得し、出力ウィンドウ "compute" に出力します。パターン一致の SPLASH コードは、フレックス要素 "Ccl_2_compute" の **ON** 句に移行します。

AleriML :

```
<PatternStream id="compute" istream="alldatatypes" store="store1">
  <Column datatype="int32" key="true" name="id"/>
  <Column datatype="string" key="true" name="charData1"/>
  <Column datatype="string" key="false" name="charData2"/>
  <Local>   int32 idloc := 0;   </Local>
  <Pattern>
    within 1 seconds
    from alldatatypes[charData='aaa'; a=p] as d1,
    alldatatypes[charData='bbb'; a=q] as d2
    on d1 fby d2
    {
      idloc := idloc + 1;
      output [id = idloc; | Symbol1='aaa'; Symbol2='bbb'];
    }
  </Pattern>
</PatternStream>
```

CCL :

```
CREATE OUTPUT STREAM Ccl_1_Pattern
SCHEMA (dlid INTEGER, d1a LONG, dlcharData STRING, d2id INTEGER, d2a
LONG, d2charData STRING)
AS
SELECT d1.id AS dlid, d1.a AS d1a, d1.charData AS dlcharData, d2.id
AS d2id, d2.a AS d2a, d2.charData AS d2charData FROM alldatatypes
d1, alldatatypes d2
MATCHING
[ 1 SECONDS : ( d1 , d2 ) ]
ON
d1.charData = 'aaa' AND d2.charData = 'bbb';

CREATE FLEX Ccl_2_compute
IN Ccl_1_Pattern, alldatatypes
OUT OUTPUT WINDOW compute SCHEMA (id INTEGER, charData1 STRING,
charData2 STRING)
PRIMARY KEY (id, charData1)
STORE store1
```

```
BEGIN
DECLARE
    INTEGER idloc := 0;
END;
ON Ccl_1_Pattern
{
    {
        idloc := idloc + 1;
        output [id = idloc; | Symbol1='aaa'; Symbol2='bbb'];
    }
};
ON alldatatypes
{
};
END;
```

第 3 章：要素の移行

foreign と foreignJava のユーザ定義関数を AleriML から CCL に移行する方法を確認します。

注意： Aleri では、関数にパラメータの変数を使用することが外部関数によって許可されていますが、Event Stream Processor ではこれを許可していません。

例：Foreign 関数の移行

CCL では、Aleri の ComputeStream "foreignStream" は **CREATE OUTPUT WINDOW** 文に移行し、ストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行します。

この例では、Aleri の ComputeStream 要素は ColumnExpression として呼び出される foreign 関数を持ちます。Aleri の foreign 関数は **CREATE LIBRARY** 文に移行し、ColumnExpression の foreign 関数の参照は Lib_0.intfun() に移行します。

```
<Store file="store1" id="store1" kind="memory"/>
<ComputeStream id="foreignStream" istream="eqInput" store="store1">
  <ColumnExpression key="true" name="a">eqInput.a</
ColumnExpression>
  <ColumnExpression key="false" name="intData">foreign("/opt/
aleriTests/lib/unit/foreign1.so",intfun,int32)</ColumnExpression>
  <ColumnExpression key="false" name="charData">foreign("/opt/
aleriTests/lib/unit/foreign1.so",stringfun,string)</
ColumnExpression>
</ComputeStream>
```

CCL：

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE LIBRARY Lib_0 LANGUAGE C FROM '/opt/aleriTests/lib/unit/
foreign1.so' (
INTEGER intfun ( );
);
CREATE LIBRARY Lib_1 LANGUAGE C FROM '/opt/aleriTests/lib/unit/
foreign1.so' (
STRING stringfun ( );
);
CREATE OUTPUT WINDOW foreignStream
SCHEMA (a INTEGER, intData INTEGER, charData STRING)
PRIMARY KEY (a)
STORE store1
AS
SELECT eqInput.a AS a, Lib_0.intfun( ) AS intData, Lib_1.stringfun( )
```

```
AS charData
FROM eqInput;
```

例：ForeignJava 関数の移行

CCL では、ComputeStream "foreignStream" は **CREATE OUTPUT WINDOW** 文に移行し、ストア要素は **CREATE MEMORY STORE** 文に移行します。

この例では、ComputeStream は ColumnExpression として foreignJava 関数を呼び出します。foreignJava 関数は **CREATE LIBRARY** 文に移行し、ColumnExpression の foreignJava 関数の参照は Lib_0.intFunction0() に移行します。

AleriML :

```
<Store file="store1" id="store1" kind="memory"/>
  <ComputeStream id="foreignStream" istream="eqInput"
store="store1">
  <ColumnExpression key="true" name="a">eqInput.a</
ColumnExpression>
  <ColumnExpression key="true" name="b">eqInput.b</
ColumnExpression>
  <ColumnExpression key="false"
name="intData0">foreignJava(Functions,intFunction0,'()I')</
ColumnExpression>
  <ColumnExpression key="false"
name="intData1">foreignJava(Functions,intFunction1,'(II)I', 1, 2)</
ColumnExpression>
</ComputeStream>
```

CCL :

```
CREATE MEMORY STORE store1 PROPERTIES INDEXTYPE ='tree',
INDEXSIZEHINT =8;
CREATE LIBRARY Lib_0 LANGUAGE Java FROM 'Functions' (
INTEGER intFunction0 ( );
);
CREATE LIBRARY Lib_1 LANGUAGE Java FROM 'Functions' (
INTEGER intFunction1 ( INTEGER , INTEGER );
CREATE OUTPUT WINDOW foreignStream
SCHEMA (a INTEGER, b STRING, intData0 INTEGER, intData1 INTEGER)
PRIMARY KEY (a, b)
STORE store1
AS
SELECT eqInput.a AS a, eqInput.b AS b, Lib_0.intFunction0( ) AS
intData0, Lib_1.intFunction1 ( 1, 2) AS intData1
FROM eqInput;
```

Aleri Streaming Platform 3.x から Sybase Event Stream Processor への移行に伴い、いくつか用語が変更されました。

Aleri Streaming Platform の用語	Event Stream Processor の用語	コメント
データ・モデル	プロジェクト	プロジェクトは複数の異なる要素で構成できます。
フレックス・ストリーム	Flex 演算子	Flex 演算子はストリームやウィンドウと同様に動作します。
有効期限	エイジング	レコードは実際には有効期限はありませんが、定義された期間が経過するとフラグが付けられます。
ロー定義	スキーマ	新しい名前です。
int32 (データ型)	int	新しい名前です。
int64 (データ型)	long	新しい名前です。
double (データ型)	float	新しい名前です。

Aleri Streaming Platform から Sybase Event Stream Processor にユーティリティが移行されます。

Aleri ユーティリティ	Event Stream Processor ユーティリティ
sp	esp_server
sp_archive	esp_iqloader
sp_cli	esp_client
sp_cnc	esp_cnc
sp_convert	esp_convert
sp_encmodel	esp_encproject
sp_kdbin	esp_kdbin
sp_kdbout	esp_kdbout
sp_playback	esp_playback
sp_query	esp_query
sp_sql2xml	esp_compiler
sp_studio	esp_studio
sp_subscribe	esp_subscribe
sp_upgrade	esp_upgrade
sp_upload	esp_upload
sp_monitor	esp_monitor
sp_id	廃止
sp_clustermgr	廃止
sp_clustermon	廃止
sp_histexport	廃止
sp_stream2olap	廃止
sp_server	廃止

第 6 章：移行されるユーティリティ

AleriML データ型は Event Stream Processor (CCL) データ型にマップします。

AleriML データ型	Event Stream Processor データ型
int32	integer
int64	long
double	float
string	string
money	money(1)...money(15)
date (second precision)	date (second precision)
timestamp (ミリ秒単位の精度)	timestamp (ミリ秒単位の精度)

esp_aml2ccl ユーティリティの制限の移行

- **モジュールとクラスタ要素を持つ AleriML** – モジュールとクラスタ要素を持つ AleriML は CCL に移行されません。これは、代わりにインフラストラクチャ要素で表されるためです。

```
<Cluster id="name of cluster">(Node)*</Cluster>
  <Module id="name of module" >{Module | DataLocation | Store
  | Stream}*</Module>
```

- **アクセス制限要素** – AleriML restrictAccess 属性とストリーム要素は CCL に移行されません。これは、代わりにインフラストラクチャ要素で表されるためです。
- **JoinStream の移行** – ジョインの点では、Event Stream Processor コンパイラは Aleri コンパイラよりも厳密です。ESP サーバでは、移行できてもコンパイルできないケースがいくつか存在します。このようなケースで正常にコンパイルを行うには、以下のように CCL を手動で設定してください。
 - FullOuter ジョインを持つ JoinStream の場合。
 1. 関連するストリームとウィンドウの間に 1 対 1 のマッピングが存在するようにします。
 2. プライマリ・キー用に firstnonnull() を追加します。
 - LeftOuter ジョインを持ち、多対多のカーディナリティを持つ JoinStream の場合。
 - 関連するストリームとウィンドウの間に 1 対 1 または多対 1 のマッピングが存在するようにします。
 - Inner ジョインを持つ、1 対 1 のカーディナリティを持たない JoinStream の場合。
 - 関連するストリームとウィンドウの間に 1 対 1 のマッピングが存在するようにします。
- **CCL に移行できない Aleri 要素の属性** –
 - ストリーム – type、oldid、convdst、ofile、expiryTimeField
 - ストア – oldid
 - SourceStream – convsrc
 - UnionStream – mergeKeys
- **重複カラム** – AleriML では、CCL で許可されない重複カラムを持つ SPLASH コードの重複カラム・レコードが許可されます。**esp_aml2ccl** 移行ツールにより、SPLASH コードがそのまま CCL の SPLASH コードに移行します。SPLASH

第 8 章：既知の制限事項

レコードに重複カラムが表示される場合は、CCL の手動での更新が必要になる場合があります。

参照：

- 第 2 章、「AleriML モデルの CCL プロジェクトへの移行」(3 ページ)
- *JoinStream* 要素(17 ページ)

索引

A

AggregateStream 要素
 ステートフル・ストアを持つ 17

Aleri 移行ユーティリティ
 esp_upgrade 1

AleriML から CCL
 データ型のマッピング 33

AleriML から CCL へのユーザ定義関数の移行
 27
 foreign 27
 foreignJava 28

AleriML の CCL への移行 3
 変換レポート・ファイル 3
 要素の移行 5

AleriML の CCL への変換 3
 変換レポート・ファイル 3

AleriML 要素の移行
 autogen 属性を持つ SourceStream 要素 10
 CopyStream 12
 DataLocation 要素 5
 FilterExpression を持つ SourceStream 要素
 10
 FilterStream 14
 FlexStream 要素 23
 FullOuter ジョインを持つ JoinStream 要素
 21
 Global 要素 22
 InConnection 要素 7
 Inner ジョインを持つ JoinStream 要素 19
 InputWindow を持つ CopyStream 要素 13
 InputWindow を持つ FilterStream 要素 15
 InputWindow を持つ SourceStream 要素 11
 insertOnly 属性を持つ SourceStream 要素 9
 JoinStream 要素 17
 LeftOuter ジョインを持つ JoinStream 要素
 20
 OutConnection 要素 8
 PatternStream 要素 24
 SourceStream 要素 9
 StartUp 要素 5

ステートフル・ストアを持つ
 AggregateStream 要素 17

ステートフル・ストアを持つ
 ComputeStream 要素 15

ステートフル・ストアを持つ CopyStream
 要素 12

ステートフル・ストアを持つ ExtendStream
 要素 16

ステートフル・ストアを持つ FilterStream
 要素 14

ステートフル・ストアを持つ SourceStream
 要素 9

ステートフル・ストアを持つ UnionStream
 要素 13

ステートレス・ストアを持つ SourceStream
 要素 12

ストア 6
 メモリ・ストア 6
 メモリ・ストア要素 6
 ログ・ストア 6
 ログ・ストア要素 6

C

ComputeStream 要素
 ステートフル・ストアを持つ 15

CopyStream 要素
 InputWindow を持つ 13
 ステートフル・ストアを持つ 12

D

DataLocation 要素 5

E

esp_aml2ccl utility
 既知の制限事項 35

esp_upgrade 1

ExtendStream 要素
 ステートフル・ストアを持つ 16

索引

F

FilterStream 要素 12, 14
 InputWindow を持つ 15
 ステートフル・ストアを持つ 14
FlexStream 要素 23
Foreign 関数の移行 27
foreignJava 関数の移行 28

G

Global 要素 22

I

InConnection 要素 7

J

JoinStream 要素 17
 FullOuter ジョインを持つ 21
 Inner ジョインを持つ 19
 LeftOuter ジョインを持つ 20

O

OutConnection 要素 8

P

PatternStream 要素 24

S

SourceStream 要素 9
 autogen 属性を持つ 10
 FilterExpression を持つ 10
 InputWindow を持つ 11

insertOnly 属性を持つ 9
ステートフル・ストアを持つ 9
ステートレス・ストアを持つ 12

StartUp 要素 5

U

UnionStream 要素
 ステートフル・ストアを持つ 13

し

ジョイン
 AleriML と CCL の相違点 17

す

ストア要素 6

て

データ型のマッピング
 AleriML から CCL 33

め

メモリ・ストア要素 6

ゆ

ユーザ定義関数
 foreign 27
 foreignJava 27, 28
ユーティリティ
 esp_aml2ccl 3

ろ

ログ・ストア要素 6